

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500032		
法人名	有限会社 五十嵐水産		
事業所名	グループホームゆずりは		
所在地	北海道松前郡松前町字静浦409-4		
自己評価作成日	令和1年10月11日	評価結果市町村受理日	令和1年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設は国道から少し離れた場所にあり、騒音とは無縁の静かな環境の中にあります。</p> <p>松前町は桜の名所であり施設周辺にも桜があるため、春にはお花見が楽しめます。</p> <p>利用者様が利用しやすい環境が少なく、外出の機会が減った事から、地域の皆様に参加していただける行事を開催し交流を深めています。また、地域の方々から旬の新鮮な食材を頂く事が多くなり、施設の存在が認識されてきたと思います。</p>
--

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191500032-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191500032-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>北海道最南端に位置している松前町の日本海側に面している国道228号線を町の中心部から車で北に20分程走ると静浦地区の集落があり、国道より山側にある浅間神社の裏手に「グループホームゆずりは」は位置している。今年4月に代表者と管理者の交代があったが、町内で高齢者福祉事業を運営している経験豊富な代表者は、新管理者と共に従来当事業所が培ってきた地域の方々との良好な関係と、利用者の誇りと尊厳を大切にしたい暮らしの支援や職員の接遇とチームの力で安心感のあるケアを提供するなどの事業所の長所をそのまま引き継いでおり、家族の信頼につなげている。地域のボランティアの訪問も活発で自然な形で優しい交流があり、利用者は四季折々の移り変わりを身近に感じることが出来る環境の中で笑顔の絶えない暮らしを送っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、食堂、事務室に掲示し、常に思いうかべる様に啓発している。	法人理念を基に地域密着型事業所としての役割を認識し、利用者との関わりを軸にケア理念を作成している。職員は日々のミーティングの中で統一を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に地域の方々を招待する他、地域の祭りやゴミ拾いに参加するなど、地域の一員として交流するよう努めている。	町内会の方々は事業所周辺の除草や清掃、野菜などの食材の差し入れに気楽に訪れている。顔馴染みの方が踊りを披露し、事業所は年2回利用者の家族と合同で懇親会を開くなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事など地域の方々と触れ合う機会を増やす事により、理解を深めてもらえるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、要望等をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。また、苦情や困った事を相談するなどしている。	定期的に開催している運営推進会議は、行政、地域、家族が参加して運営状況や行事活動などが報告されている。出席者からは意見をもらい、情報交換を重ね双方向的な会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは通達事項があるごとに連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいる。	職員はケア会議や研修会に参加し、運営推進会議には町担当者が出席している。事業所は、案件が発生した時は包括支援センターと連携するなど協力体制を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して、身体拘束禁止の行為を理解させるため、外部研修への参加や内部研修を行っている。また、夜間は職員が1名で防犯のため、夜9時から翌朝5時までは玄関の施錠をしている。	入居時に身体拘束廃止に関する事業所の指針を家族に説明し、同意を得ている。系列事業所と合同の研修会に参加し、内部勉強会の時に伝達講習を実施して職員間の共有を図り、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会はまだ設けていないが、事業所内で虐待がおきないように注意を払っている。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修等に参加している。必要性がある場合は活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行っているので、理解・納得を得られていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議または施設を訪問した際に、意見、要望を伺っている。	年2回、家族と地域住民合同の懇親会を実施して交流を図り、訪れる家族からは温かい言葉をもらいながら職員は家族の心情を察し、日々の暮らしをアルバムにして様子を伝え、意見や要望の入手に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。	今年の4月に代表者と管理者の交代により職員の意見を取り入れての内規改正や職場環境の整備に努め、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町主催の勉強会へ参加するなど可能な限り研修を受ける機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社で開催している研修会や、町主催の勉強会へ参加した際に交流を行う等、サービス向上に向けた取り組みに努力している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時点では、利用者の行動、言動に特に注意し、希望があれば自宅や周辺へ出掛けるなど、一日でも早く安心して暮らせるための信頼関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込時から、訪来の際等に家族の要望を伺い、気軽に電話をしたり、送迎をするなど信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者への支援のあり方については考えており、可能な限り他のサービス利用も含めた対応も考えている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の要望を取り入れながら利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族または親類との交流の機会が途切れないように、外出、外泊が自由に出来るように支援している。	食材の差し入れやボランティアなどで訪れる知人や友人に職員は地元の言葉で対応し、訪問者は尚一層の親近感を抱き、継続的支援につなげている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立せず、利用者同士が支え合えるように、利用者同士の関係を把握している。			

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、相談があれば支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の希望等を把握するよう努めている。	生活歴や環境を把握し、個性を職員間で共有しながら利用者と同じ目線や立場を理解すると共に思いや意向を汲み取り、その人らしく暮らせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた馴染みの物や位牌等を持って来てもらったり、利用者との会話から生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス記録等を利用し、職員間で情報を共有することで、利用者の状況を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてケアのあり方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	本人と家族の要望を取り入れ、かかりつけ医の意見書や日々の暮らしの記録を反映し、モニタリングは全職員で課題解決のために話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はサービス記録に記載し、職員間で情報を共有しており、介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等を本人や家族からの要望に柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関をはじめ、民生委員、自警団、ボランティアなどにも、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町立松前病院による月2回の訪問診療を利用している。また、利用者の希望がある場合は、その都度、受診支援している。	月2回の往診日には利用者の健康状況を伝えたり、服薬の相談や専門外の治療に他の医療機関の紹介状をもらい受診をしている。緊急時や夜間体制も整えている。	

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、訪問診療時の支援や、利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは月1回のケア会議及び訪問診療を通じて連携し、利用者が入院した際には、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関側の医師及び看護師不足の理由から、十分な連携がとれないため、ターミナルケアは行っていないが介護同意書を家族と交わしている。	契約時に看取りについて事業所の指針を家族に説明し、同意を得ている。マニュアルを整えての勉強会では職員間の意識の統一を図り、家族の意向に沿って支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急な事故に備えたマニュアルは整備している。定期的な訓練は行っていないが、全職員を対象に消防より訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加のもと、消防訓練(消火・通報・避難)を行っており、地域との協力体制も築いている。	年2回の訓練には地元消防団と町内会の方々の協力があり、事業所内の備蓄は無論のこと、設定されている避難場所にも発電機や日常の必需品が用意され、自然災害に備えて全員が移動を経験している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないように言葉かけに注意している。	利用者の人格を尊重し敬う心もち羞恥心に伴う配慮の徹底を図り、言葉と語調に留意しながら誇りやプライバシーを損ねないケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを感じ取り、分かりやすい言葉で説明し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まってしまうが、出来る限り一人ひとりのペースを大切にし、本人と他の利用者が共同で生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそった身だしなみが出来るように支援している。理髪は訪問サービスを利用しているが、行きつけの美容室がある場合は送迎している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、出来る限り職員と共同で行っている。また、利用者の食事の好みを考慮し、食べやすい形態で提供している。	地域の方や家族からの差し入れがあると利用者を変えて調理方法を考えて、楽しみと一緒に食欲の旺盛につながり、職員は、豊かな食事の提供に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてサービス記録により管理している。一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、義歯洗浄機を購入し使用もしている。また、歯科医院による送迎車を利用し通院するなどしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導を行うことにより、排泄の失敗やおむつを減らすように支援している。	高齢の利用者は入居時オムツ使用で笑顔がなかったが、職員が日々手と足のリハビリをし、徐々に力が出て自ら布パンツを着用できるようになり、本人に笑顔が見られたことに職員も喜びを得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応は、主治医に相談の上、日常の食事の際に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、個別に日時を決めているが、利用者の体調等により、柔軟に変更できるように支援している。	入浴日を設定をせずに本人が入りたい時に、両ユニットの職員全員で臨機応変に入浴を介助する体制を新たにし、ホールの入浴一覧表で確認できるシステムは利用者の意思を尊重し、楽しい入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を考慮して、その時々状況に応じて休息したり眠れるように支援しているが、眠剤等は出来るだけ使用しないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は介護職員が行っており、服薬と症状の変化はサービス記録に記載している。また、全職員が薬について把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味を活かした役割をもうけ、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりは)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が希望する場合は、買い物や食事などの外出支援に努めている。また、家族や親類などが訪問の際は、お墓参りや外泊など、自由に出かけられるように支援している。	春には松前公園のお花見に出かけ、秋には町の文化祭に展示している作品の観賞に出かけている。天気のよい日には、買い物や散歩、ついでにソフトクリームを食べたり、一人ひとりの希望により外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お小遣い程度(小銭)は、本人に管理してもらっている。また、預かり金は本人や家族の希望により、いつでも使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話は自由に使用できる。また、手紙のやりとりが出来るようにも支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、常に清潔であるように日々の清掃は欠かさず行い、温度、湿度にも気を配っている。また、季節の花を飾ることで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよに配慮している。	各ユニットの構造に違いがあるが、事業所内は明るく清潔感があり、居間のベランダから見える職員が描いた日本海の絵や海上を飛ぶカモメ、松前城などの絵が外のフェンス一杯に描かれ、利用者には郷愁を誘い、職員の地元を忘れないでとの思いが伝わる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂はバリアフリーになっており、廊下にはソファを置き、気のあった仲間同士が過ごせるような場所を確保している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、利用者の使い慣れたものや位牌等を持ち込めるようにしている。また自作の作品を飾る等もしている。	ベッド、クローゼットが備え付けられ、在宅当時のチェスト、位牌、写真などの思い出の品が持ち込まれ、個々に心地よく暮らせるよう工夫が見受けられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室の要所、個々に必要な居室には手すりを設置している。また、トイレと浴室には呼び出し用のプザーを設置し、安全でできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。			



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500032		
法人名	有限会社 五十嵐水産		
事業所名	グループホームゆずりはの里		
所在地	北海道松前郡松前町字静浦409-4		
自己評価作成日	令和元年10月11日	評価結果市町村受理日	令和1年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設は国道から少し離れた場所にあり、騒音とは無縁の静かな環境の中にあります。</p> <p>松前町は桜の名所であり施設周辺にも桜があるため、春にはお花見が楽しめます。</p> <p>利用者様が利用しやすい環境が少なく、外出の機会が減ったことから、地域の皆様に参加していただける行事を開催し交流を深めています。また、地域の方々から旬の新鮮な食材を頂く事が多くなり、施設の存在が認識されてきたと思います。</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191500032-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0191500032-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和1年11月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty space for external evaluation comments
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関、食堂、事務室に掲示し、常に思いうかべる様に啓発している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事に地域の方々を招待する他、地域の祭りやゴミ拾いに参加するなど、地域の一員として交流するよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事など地域の方々と触れ合う機会を増やす事により、理解を深めてもらえるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見、要望等をサービス向上に活かせるように取り組んでいる。また、苦情や困った事を相談するなどしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは通達事項があるごとに連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に対して、身体拘束禁止の行為を理解させるため、外部研修への参加や内部研修を行っている。また、夜間は職員が1名で防犯のため、夜9時から翌朝5時までは玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会はまだ設けていないが、事業所内で虐待がおきないように注意を払っている。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修等に参加している。必要性がある場合は活用できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行っているので、理解・納得を得られていると思う。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議または施設を訪問した際に、意見、要望を伺っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	可能な限り職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	町主催の勉強会へ参加するなど可能な限り研修を受ける機会を確保するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ会社で開催している研修会や、町主催の勉強会へ参加した際に交流を行う等、サービス向上に向けた取り組みに努力している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時点では、利用者の行動、言動に特に注意し、希望があれば自宅や周辺へ出掛けるなど、一日でも早く安心して暮らせるための信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込み時から、訪来の際等に家族の要望等を伺い、気軽に電話をしたり、送迎をするなど信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に利用者への支援のあり方については考えており、可能な限り他のサービス利用も含めた対応も考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように、暮らしを共にする者同士の関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の要望を取り入れながら利用者を支えていけるような関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族または親類との交流の機会が途切れないように、外出、外泊が自由にできるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者が孤立せず、利用者同士が支え合えるように、利用者同士の関係を把握している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、相談があれば支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の希望等を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れた馴染みの物や位牌等を持ってきてもらったり、利用者との会話から生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス記録等を利用し、職員間で情報を共有することで、利用者の現状を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議にてケアのあり方について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はサービス記録に記載し、職員間で情報を共有しており、介護計画の作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎等を本人や家族からの要望に柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共機関をはじめ、民生委員、自警団、ボランティアなどにも、安全で豊かな暮らしができるよう支援をいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町立松前病院による月2回の訪問診療を利用している。また、利用者の希望がある場合は、その都度、受診支援している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、訪問診療時の支援や、利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは月1回のケア会議及び訪問診療を通じて連携し、利用者が入院した際には、情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関側の医師及び看護師不足の理由から、十分な連携がとれないため、ターミナルケアは行っていないが介護同意書を家族と交わしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急な事故に備えたマニュアルは整備している。定期的な訓練は行っていないが、全職員を対象に消防より訓練を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員参加のもと、消防訓練(消火・通報・避難)を行っており、地域との協力体制も築いている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライドを傷つけないように言葉かけに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを感じ取り、分かりやすい言葉で説明し、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度きまってしまうが、出来る限り一人ひとりのペースを大切にし、本人と他の利用者が共同で生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそった身だしなみができるように支援している。また、顔の毛は職員が剃るなどし、理髪は訪問サービスを利用している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、出来る限り職員と共同で行っている。また、利用者の食事の好みを考慮し、食べやすい形態で提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じてサービス記録により管理している。一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、義歯洗浄機を購入し使用もしている。また、歯科医院による送迎車を利用し通院するなどしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人別の排泄パターンを把握し、声がけにてトイレ誘導を行うことにより、排泄の失敗やおむつを減らすように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応は、主治医に相談のうえ、日常の食事の際に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回、個別に日時を決めているが、利用者の体調等により、柔軟に変更できるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を考慮して、その時々状況に応じて休息したり眠れるように支援しているが、眠剤等は出来るだけ使用しないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は介護職員が行っており、服薬と症状の変化はサービス記録に記載している。また、全職員が薬について把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味を活かした役割をもうけ、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		

グループホームゆずりは

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ゆずりはの里)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が希望する場合は、買い物や食事などの外出支援に努めている。また、家族や親類などが訪問の際は、お墓参りや外泊など、自由に出かけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名お小遣い程度(小銭)は、本人に管理してもらっている。また、預かり金は本人や家族の希望により、いつでも使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話は自由に使用できる。また、手紙のやりとりが出来るようにも支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は明るく、常に清潔であるように日々の清掃は欠かさず行い、温度、湿度にも気を配っている。また、季節の花を飾ることで季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるよに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂はバリアフリーになっており、廊下部分にはイスを置き、気のあった仲間同士が過ごせるような場所を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、利用者の使い慣れたものや位牌等を持ち込めるようにしている。また自作の作品を飾る等もしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、浴室の要所、個々に必要な居室には手すりを設置している。また、トイレと浴室には呼び出し用のプザーを設置し、安全でできるだけ自立した生活が送れるように配慮している。		



目標達成計画

事業所名 グループホームゆずりは

作成日 令和 1年 11月 22日

市町村受理日 令和 1年 11月 26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1			現状を維持し、更なる介護技術の向上を目指す。	出来る範囲で外部研修に参加し、学んだ事を中心に内部研修を充実させる等。	2年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。